

UNI-PEX

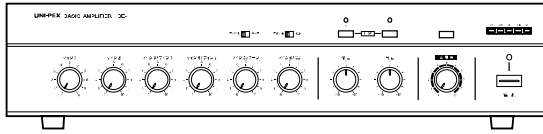
取扱説明書

卓上形ベーシックアンプ

定格出力 120W

定格出力 60W

BE-120 BE-60



このたびは、卓上形ベーシックアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。

目次

安全上のご注意 [免責事項について・お願い]	1~3
各部の名称と説明(前面/後面)	4、5
各マイク入力ジャックについて	6
オートマチックフェーダー回路について	6
端子カバーのはずし方	6
接続例	7
スピーカーの接続方法	8、9
非常制御端子について	10
外部起動端子について	10
DC電源でご使用の場合	11
100系入力端子について	11
別売エレクトロチャイムユニットの取付方法	12
ノイズ対策について	13
故障かな?と思われましたら	14
定格/外觀寸法図	15

安全上のご注意

必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめ、販売店などに連絡する

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに使用を中止し、販売店などにご連絡ください。



工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。



分解/改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。















異物を入れない/濡らさない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



 警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
定期点検を実施する 専門の業者（技術者）による定期点検を実施してください。特に経年劣化には充分ご注意ください。異常があれば、ただちに使用をやめ、販売店などにご連絡ください。	
通風孔をふさがない 通風孔をふさぐものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐためケースに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 本機を横倒しや逆さま、あお向けにする。本機を押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。 テーブルクロスを掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用する。	
表示された電源電圧以外の電圧で使用しない 火災・感電の原因となります。	
雷が鳴り出したら、アンテナ線、スピーカー線や電源プラグには触れない 感電の原因となります。	
この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。	
この機器の上でろうそく等の炎が発生しているものを置かない 火災の原因となります。	
電源コードを熱器具に近づけない コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	
電源コードを傷つけない 電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）販売店などに交換をご依頼ください。	
電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。定期的に電源プラグを抜き、乾いた布などで拭きとってください。	
電源プラグは根元まで確実に差し込む 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。	
電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。	
不安定な場所に置かない 落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。	
重量に耐える取り付け、設置をする 取り付け、設置の場所や方法が不適切な場合、落下や転倒などでけがの原因となります。取り付けは販売店に依頼してください。	
壁から5cm以上の間隔をおいて設置する 内部に熱がこもり火災の原因となります。また、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、すきまをあけてください。	

 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	
湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない 火災・感電の原因となることがあります。	
電源を入れる前には音量を最小にする 突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。	
お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く 感電の原因となることがあります。	 プラグをコンセントから抜く

⚠️ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	
長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く 火災の原因となることがあります。	 プラグをコンセントから抜く
本機を電源コンセントの近くに置いて使用する 万一の事故防止のため、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにして使用してください。	
濡れた手で、電源コードを抜き差ししない 感電の原因となります。	
移動するときは、コード類を傷つけない 火災、感電の原因となることがあります。移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。	 プラグをコンセントから抜く
この機器に乗ったり、ぶらさがったり、足場代わりにしない 特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。	
廃棄は専門業者に依頼する 燃やすと化学物質などで目を傷めたり、火災ややけどの原因となります。	
テレビ、オーディオ機器、ビデオ機器、スピーカーなどの機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。又接続が終わりましたら必ずスピーカー端子盤カバーを取り付けてください。感電の原因となることがあります。	
1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。	

設置・使用上のご注意

入力線と出力線は近づけますと発振する恐れがありますので、できるだけ離して配線してください。

直射日光の差し込む場所、温度の高くなる所には設置しないでください。また、湿度・ほこり及び振動の多い場所に設置すると故障の原因となることがあります。

本機を雑音発生の原因になる機器の近くには設置しないでください。

高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

お客様の故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など

本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害

本製品のお客様ご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害

本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害

第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

本機を長期間お使いの場合は

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。

- ・外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があり故障したり、事故の原因となることがあります。下記 ~ の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されましたら直ちに電源を切り(使用中止)販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。

特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

煙りが出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。 電源コード・電源プラグが異常に熱い。または亀裂や傷がある。本機に触れるとビリビリと電気を感じる。 電源を入れても音が出てこない、その他の異常・故障がある。

各部の名称と説明（前面）

回線2選択スイッチ

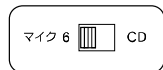
回線2側に接続されたスピーカーに放送する場合はこのスイッチを押してください。

回線1選択スイッチ

回線1側に接続されたスピーカーに放送する場合はこのスイッチを押してください。

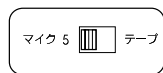
マイク6/CD入力切換スイッチ

使用する入力側に切り換えてご使用ください。



マイク5/テープ入力切換スイッチ

使用する入力側に切り換えてご使用ください。



マイク1音量調節つまみ

マイク1入力ジャックに接続されたマイクの音量を調節します。オートマチックフェーダー機能付です。(6ページのオートマチックフェーダー回路についての項を参照)

マイク2音量調節つまみ

マイク2入力ジャックに接続されたマイクの音量を調節します。

マイク3/ライン1音量調節つまみ

ライン1/マイク3入力ジャックに接続された機器の音量を調節します。

マイク4/ライン2音量調節つまみ

ライン2/マイク4入力ジャックに接続された機器の音量を調節します。

マイク5/テープ音量調節つまみ

マイク5入力ジャック、テープ入力ピンジャックに接続された機器の音量を調節します。

マイク6/CD音量調節つまみ

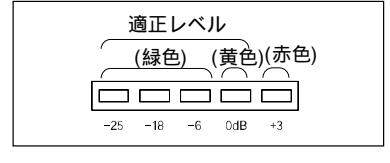
マイク6入力ジャック、CD入力ピンジャックに接続された機器の音量を調節します。

回線1動作表示灯（緑）

回線2動作表示灯（緑）

動作表示灯

出力レベルの表示をします。緑色（-6dB ~ -25dB）と黄色（0dB）表示内が適正範囲です。連続して赤色（+3dB）で点灯しないように各音量と主音量を調節してください。



電源表示灯（緑）

電源スイッチを押すと緑色に点灯します。

電源スイッチ

押すと電源が入ります。また、電源が入っていない状態でも待機のための電力を消費します。

主音量調節つまみ

各入力のミキシングされた音量を調節します。

チャイム用押しボタン

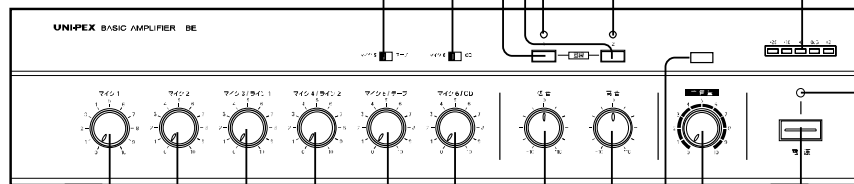
（別売のエレクトロチャイムユニット組込時）このボタンを押すとチャイムが鳴動します。

高音音質調節つまみ

右回りで高音が増強され、左回りで高音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。

低音音質調節つまみ

右回りで低音が増強され、左回りで低音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。



各部の名称と説明（後面）

マイク6入力ジャック

(- 62dBV / 600 電子平衡) [音量調節器付] マイク1放送時には、このマイク6入力の音量は自動的に減衰します。6ページの「オートマチックフェーダー回路について」をご覧ください。

録音出力ピンジャック

(0dBV / 600 不平衡)カセットデッキの録音入力 (REC IN) に接続してください。

ライン出力ピンジャック

(0dBV / 600 不平衡)増設アンプの入力に接続してください。

電源コード

電源プラグをAC100Vコンセントに接続してください。

アース端子

(雑音低減用) この端子は他の音響機器などを接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

スピーカー出力端子カバー

このカバーを取りはずすと内側にスピーカー出力端子台があります。スピーカーを本機に接続される時は、このスピーカー出力端子カバーをはずしてください。スピーカー出力端子台の接続が終われば必ずこのカバーを取付けてください。

アンプ入力ピンジャック (0dBV / 600 不平衡)

本機を増設アンプとして使用する場合に、他のアンプのライン出力に接続してください。本機の入力とミキシングされます。

CD入力ピンジャック

(- 16dBV / 10k 不平衡) [音量調節器付] CDプレーヤーなどを接続してください。ステレオ機器はL / Rチャンネルに関係なく、モノラル機器はどちらかのジャックに接続してください。マイク1放送時には、このCD入力の音量は自動的に減衰します。6ページの「オートマチックフェーダー回路について」をご覧ください。

テープ入力ピンジャック

(- 22dBV / 10k 不平衡) [音量調節器付] カセットプレーヤーなどを接続してください。ステレオ機器はL / Rチャンネルに関係なく、モノラル機器はどちらかのジャックに接続してください。マイク1放送時にはこのテープ入力の音量は自動的に減衰します。6ページの「オートマチックフェーダー回路について」をご覧ください。

マイク5入力ジャック

(- 62dBV / 600 電子平衡) [音量調節器付] マイク1放送時にはこのマイク5入力の音量は自動的に減衰します。6ページの「オートマチックフェーダー回路について」をご覧ください。

制御入力端子

非常制御入力、電源起動入力やDC 24Vを接続します。(10、11ページの説明参照)

100系 / チャイム入力端子カバー

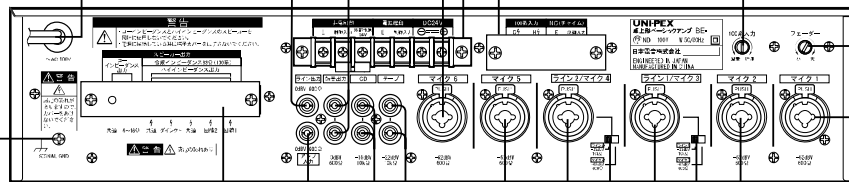
このカバーを取りはずすと内側に端子台があります。100系入力やチャイム起動入力を本機に接続される時は、この端子カバーをはずしてください。接続が終われば必ずこのカバーを取付けてください。(6ページ「端子カバーのはずし方」参照)

100系入力音量調節つまみ

100系入力の音量を調節します。右回して増幅され、左回して減衰されます。

フェーダー減衰量調節つまみ

フェーダー減衰量を調節します。右回して減衰量が增強され、左回して減衰量が低減されます。左回しきり位置では減衰量が「0」になります。6ページの「オートマチックフェーダー回路について」をご覧ください。



マイク1入力ジャック

(- 62dBV / 600 電子平衡) [音量調節器付]

マイク2入力ジャック

(- 62dBV / 600 電子平衡) [音量調節器付]

ライン1 / マイク3入力レベル切替スイッチ

(- 22dBV / - 62dBV)
ライン1 / マイク3入力ジャックに接続する機器に合わせて切り換えてください。

ライン1 / マイク3入力ジャック

(- 22dBV10k / - 62dBV 600 電子平衡) [音量調節器付]

接続する機器のレベルに合わせて入力レベル切替スイッチを設定してください。

ライン2 / マイク4入力レベル切替スイッチ

(- 22dBV / - 62dBV)
ライン2 / マイク4入力ジャックに接続する機器に合わせて切り換えてください。

ライン2 / マイク4入力ジャック

(- 22dBV10k / - 62dBV 600 電子平衡) [音量調節器付]

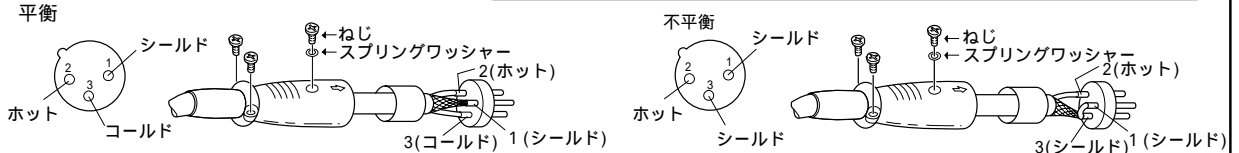
接続する機器のレベルに合わせて入力レベル切替スイッチを設定してください。

各マイク入力ジャックについて

本機のマイク 1、マイク 2、ライン 1/マイク 3、ライン 2/マイク 4、マイク 5、マイク 6の各入力ジャックはキャノンタイプコネクタ(XLR-4-31相当)です。接続にはキャノンタイプコネクタ、及び大形単頭プラグが使用できます。プラグの抜けなどのトラブルを防ぐためにキャノンタイプコネクタの使用をおすすめします。

キャノンタイプコネクタ結線図 (XLR-3-12C相当)

注意 配線を間違えない、ショートさせない。機器の損傷や火災・感電の原因となることがあります。



接続のはずし方

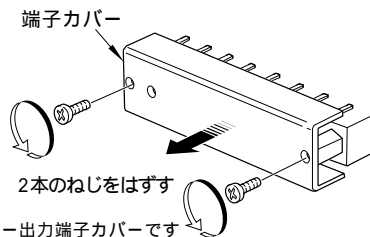


キャノンタイプコネクタの接続をはずされるときは、本機側のコネクタのラッチを押しながら抜いてください。

端子カバーのはずし方

スピーカーや100系入力、チャイム起動入力を本機に接続されるときは、端子カバー両端のねじ2本をはずし、カバーをはずしてください。各端子の接続後には必ずカバーを元どおり取付けてください。(図1参照)

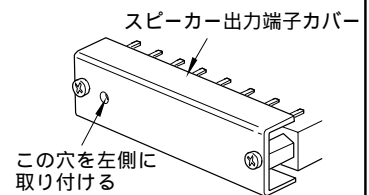
図 1



説明図はスピーカー出力端子カバーです

ご注意

スピーカー出力端子カバーをはずされたときは、必ず端子カバーの丸穴が左側になる方向に取り付けてください。



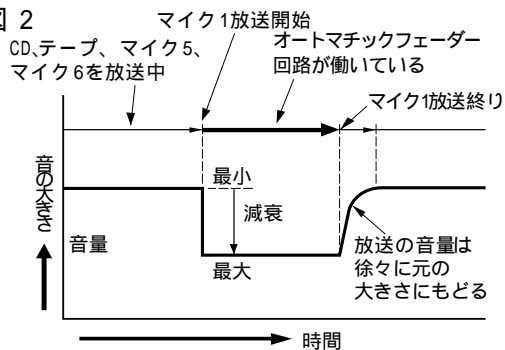
警告 端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

オートマチックフェーダー回路について

マイク1放送時にはCD入力、テープ入力、マイク 5入力、マイク 6入力の音量が自動的に減衰します。また、放送が終わると自動的に元の音量に戻ります。(図2参照)

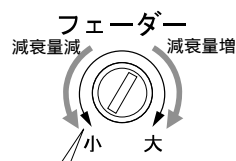
減衰量は後面のフェーダー減衰量調節つまみで調節することができます。右へ回すと、減衰量が大きくなり、左へ回すと小さくなります。左回しきり位置では、減衰量が「0」になり、オートマチックフェーダー回路が働いても放送の音量は下がりにません。(図3参照)

図 2



フェーダー減衰量調節つまみ

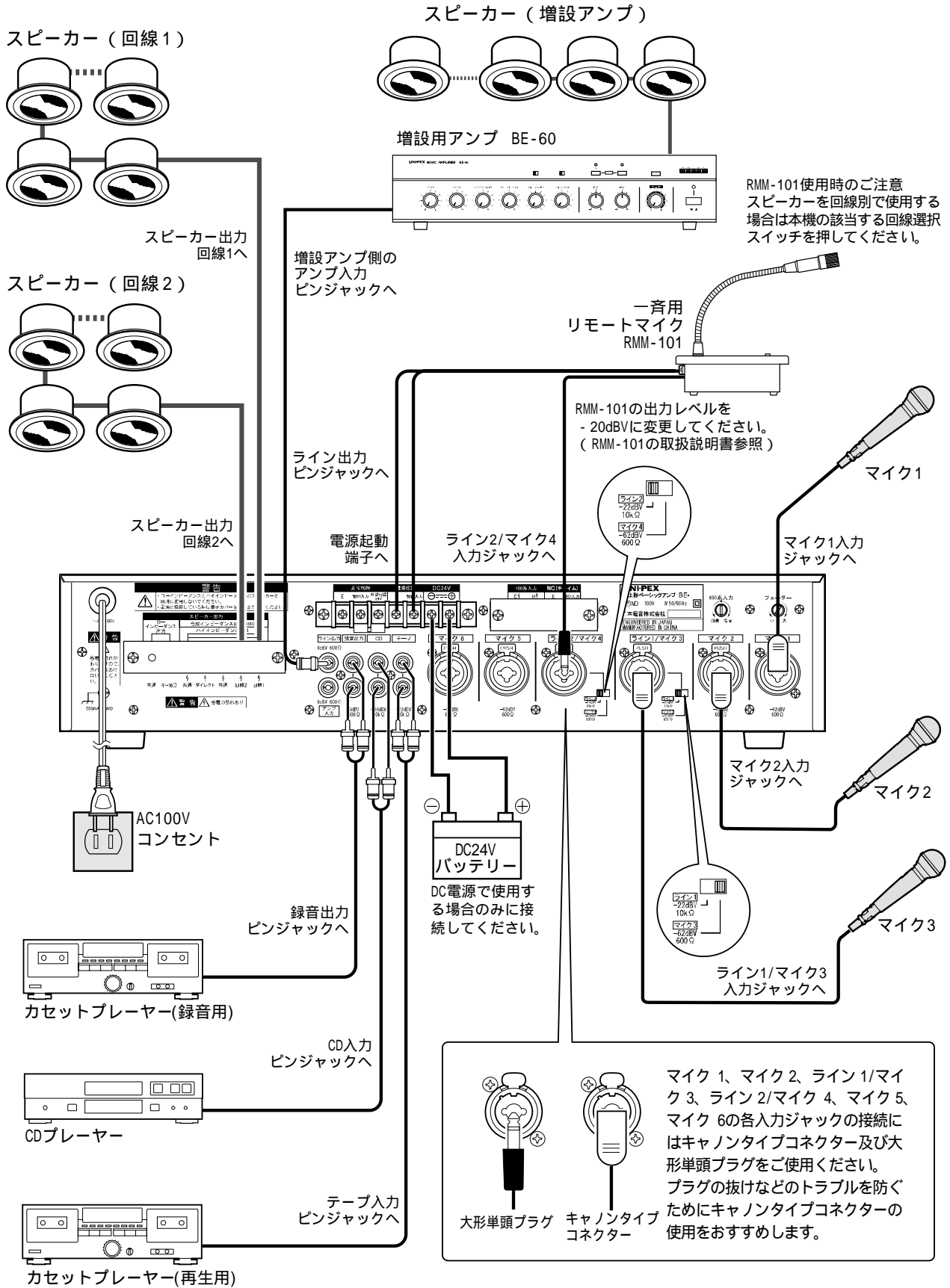
図 3



左回しきり(最小)位置で減衰量が「0」になります。

注) 工場出荷時は左回しきり位置に設定されていますので、オートマチックフェーダー回路が働いてもCD、テープ、マイク5、マイク6の各入力の音量は自動的に下がりにません。それらの放送の音量を下げる場合は必ず減衰量の調節をおこなってください。

接続例

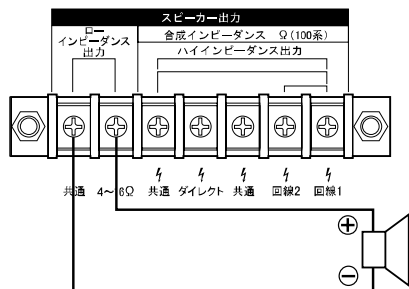


スピーカーの接続方法

スピーカーを接続されるときは、後面の端子カバーをはずしてください。
内側に端子台があります。端子台の接続が終われば必ずこのカバーを元どおり取付けてください。

警告 端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

ローインピーダンススピーカーの接続

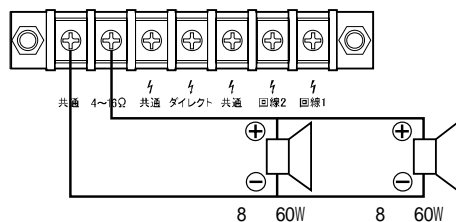


アンプ品番(定格出力)	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
BE-120 (120W)	4 ~ 16	120W以上
BE-60 (60W)		60W以上

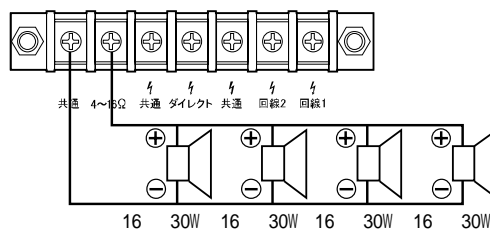
ローインピーダンススピーカーの接続例

BE-120

8 60W スピーカー2個

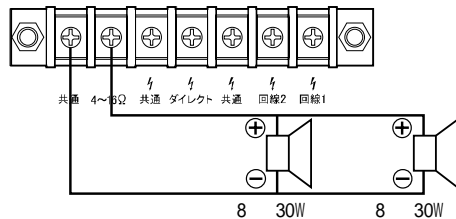


16 30W スピーカー4個

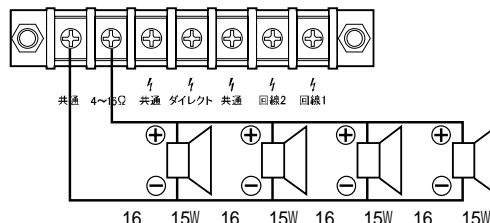


BE-60

8 30W スピーカー2個



16 15W スピーカー4個



特にご注意を. ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
多数のスピーカーを接続するときは、全スピーカーの合成インピーダンスが4以下にならないようにしてください。
使用するスピーカーの定格入力、スピーカー1個に加わる入力W数より大きいものを使用してください。

スピーカー配線材の太さと配線可能距離のめやす

芯線の太さ	0.9mm	1.0mm	1.2mm	1.6mm	2.0mm	2.6mm
距離	7m	10m	13m	23m	40m	60m

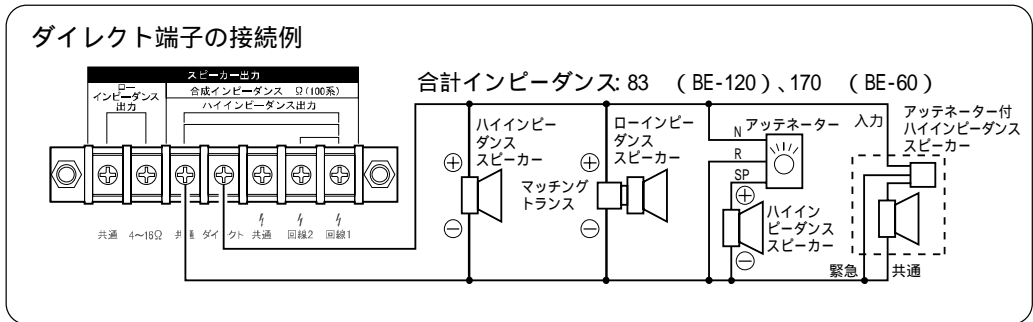
ハイインピーダンススピーカーの接続

接続できるスピーカーは下表のとおりです。

機種	出力端子	適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
BE-120	出力 83	83 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が 120W以内
	出力 170	170 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が 60W以内
BE-60	出力 83	83 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が 120W以内
	出力 170	170 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が 60W以内

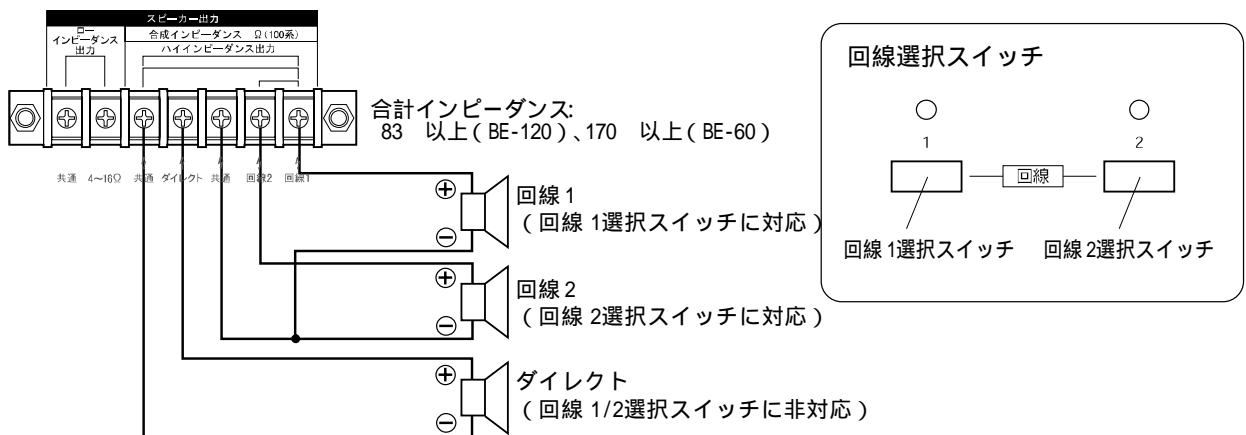
1系統で放送する場合

ダイレクト端子は回線 1及び回線 2の選択操作にかかわらず出力されます。



系統別で放送する場合(回線選択スイッチ使用時)

回線 1及び回線 2の選択スイッチ押すと、ハイインピーダンス出力の回線 1及び回線 2に出力します。



特にご注意を... スピーカーの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。
 スピーカーの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。
 ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
 感電に注意！出力端子には、定格出力時に次に示す電圧がかかります。
 BE-120：約100V(出力83)、BE-60：約100V(出力170)

スピーカー配線材の太さと配線可能距離のめやす

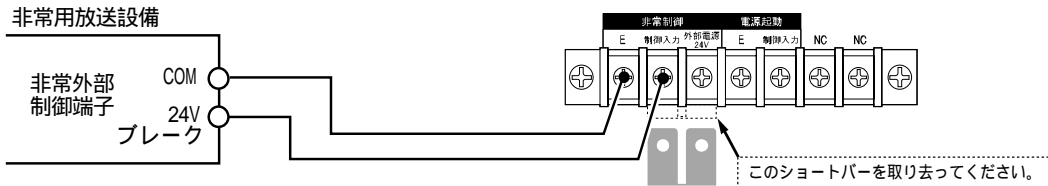
	線の太さ	0.9mm	1.0mm	1.2mm	1.6mm	2.0mm	2.6mm
BE-120	83 の場合の延長距離	145m	180m	280m	500m	770m	1.3km
BE-60	170 の場合の延長距離	290m	360m	560m	1km	1.5km	2.6km

非常制御端子について

非常用放送設備からの信号（常時DC24V受電、非常時遮断または非常时无電圧ブレイク接点）で非常時に本機の電源を「切」にすることができます。

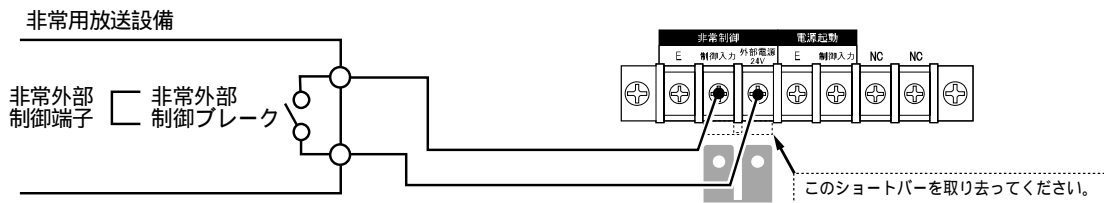
常時DC24V受電、非常時遮断の場合

本機の端子台の「非常制御入力」-「外部電源24V」間のショートバーを取りはずしてください。
非常用放送設備の非常外部制御端子の「24Vブレイク」「COM」を本機の「非常制御入力」「E」と図のように接続してください。



非常时无電圧ブレイク接点の場合

本機の端子台の「非常制御入力」-「外部電源24V」間のショートバーを取りはずしてください。
非常用放送設備の非常外部制御端子を本機の「非常制御入力」「外部電源24V」と図のように接続してください。

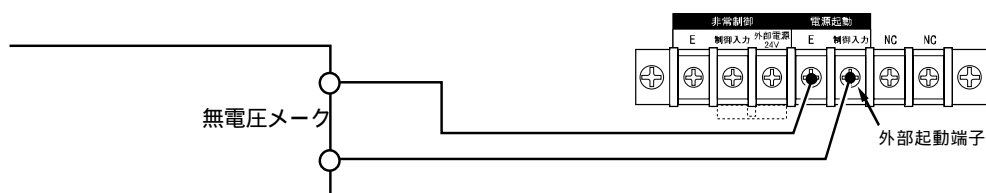


ご注意

非常遮断制御端子の使用時以外は、ショートバーをはずさないでください。はずすと電源が入りません。

外部起動端子について

無電圧メーク接点制御方式により外部より本機の電源制御がおこなえます。



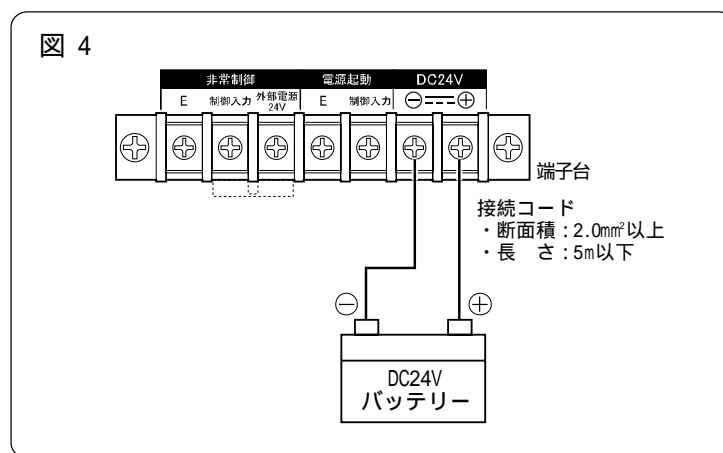
DC電源でご使用の場合

DC電源使用時の定格電圧、定格出力時消費電流は次のとおりです。ご使用アンプの品番をお確かめの上、DC電源を接続してください。

品番	定格電圧	定格出力時消費電流
BE-120	24V	9.2A
BE-60	24V	4.8A

DC電源の接続時は必ず電源スイッチを切にしてください。

DC電源接続コードは、断面積 2.0mm^2 以上で、コードの長さは5m以内のものをご使用ください。また故障の原因となりますので接続するときは、+/-をよく確かめて、ショートしないように充分ご注意ください。(図4参照)



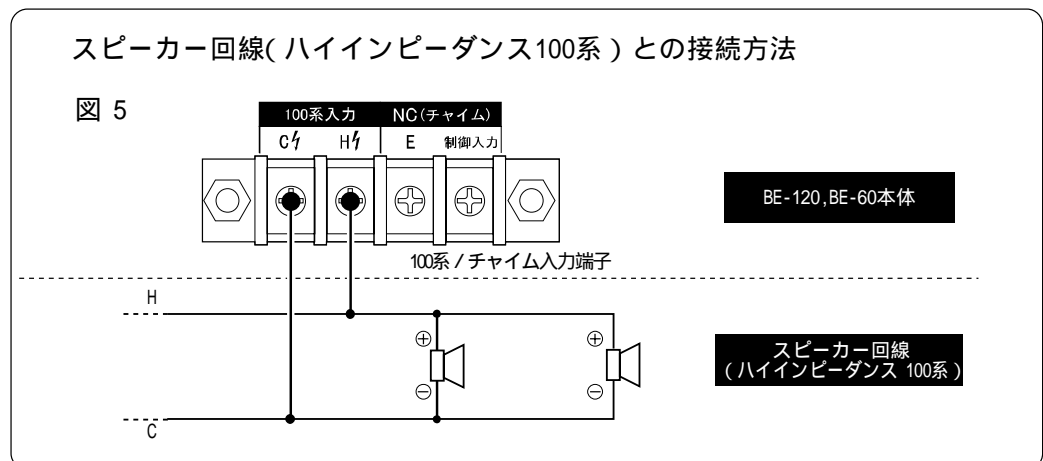
100系入力端子について

100系スピーカー回線を入力することができます。

100系入力に100系スピーカー回線を接続される場合は、後面の100系/チャイム入力端子カバーを6ページの「端子カバーのはずし方」の要領ではずしてください。

図5のように配線してください。

100系/チャイム入力端子カバーを元通り取付けてください。



別売エレクトロチャイムユニットの取付方法

エレクトロチャイムユニットの取付は販売店または、最寄りのユニベックス営業所にご相談ください。
本機のカバー取付ねじ (M4×8バインドねじ) 7本 (両側面 6本、天面 1本) をはずし、カバーを取りはずしてください。

注) はずしたねじは取付作業終了後に使用しますので紛失しないようご注意ください。

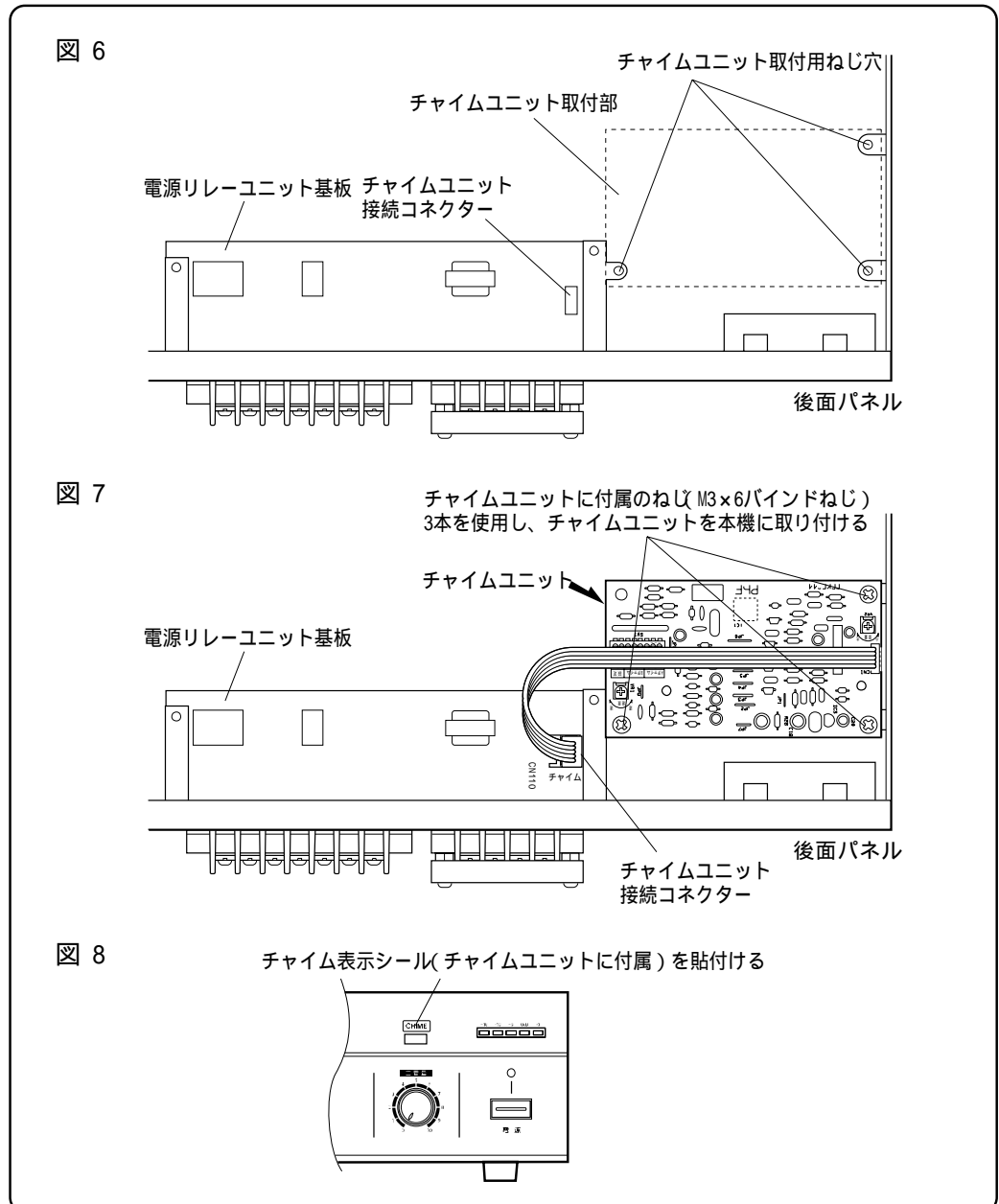
チャイムユニットを本機のチャイムユニット取付部のねじ穴 (3箇所) にチャイムユニットに付属のねじ (M3×6バインドねじ) 3本を使用し取り付けてください。(図6、7参照)

チャイムユニットの接続コネクタを本機の電源リレーユニット基板上のチャイムユニット接続コネクタに接続してください。(図6、7参照)

本機のカバーをもとどおりに取り付けてください。(取付ねじは必ず、はずしたねじ (M4×8) を使用してください。)

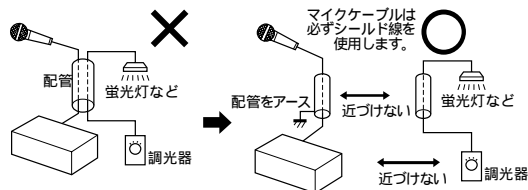
前面パネルのチャイム用押しボタンの上部にチャイム表示シール (チャイムユニットに付属) を貼ってください。(図8参照)

その他ご使用方法などの説明はエレクトロチャイムユニットの取扱説明書をご覧ください。

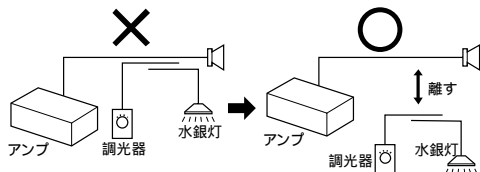


ノイズ対策について

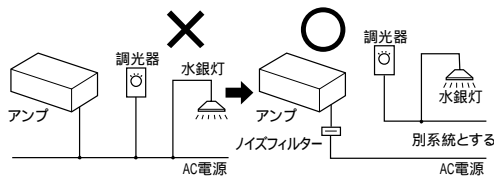
外来ノイズの影響を受けないために、配線については次のような点にご注意ください。



マイクケーブル等の入力線のノイズ対策
調光器系統、AC電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。



スピーカー線のノイズ対策
スピーカー線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。



電源のとりかた
電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのAC100V電源線にノイズフィルターを入れてください。

携帯電話の使用について

本機の近傍で携帯電話を使用しますと、雑音発生の原因になります。本機を使用中に携帯電話を使用される場合は充分ご注意ください。

故障かな？と思われましたら

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな？と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。



警告

次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

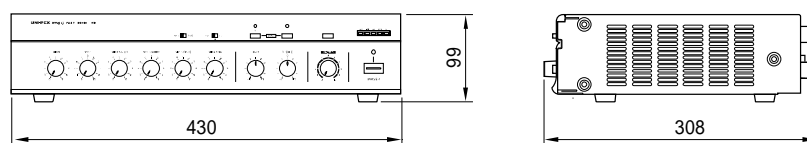
症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
有線マイクの音声がでない	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
スピーカーから音が出ない	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	スピーカーは確実に接続されていますか。	確認してください。
音がわる	ご使用の入力の音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
音がわかる	出力レベルメーターの赤色LEDが常時、点灯していませんか。	赤色LEDが常時点灯しないように音量を調節してください。
音質がおかしい	各音質調節(低音、高音)つまみが正しく調節されていますか。	音質調節つまみの説明をよく読んで調節してください。
雑音ができる	本機やスピーカーコード、マイクコードなどがノイズを発生する機器の近くにありませんか。	ノイズを発生する機器から遠ざけてください。
接続機器の音がでない または小さい	接続機器及び本機側の入力音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
	接続機器のレベルは合っていますか。	P5の各入力の説明をご覧ください。

定格

品番	BE-120	BE-60
使用電源	AC100V 50/60Hz、DC28V (24Vバッテリー)	AC100V 50/60Hz、DC28V (24Vバッテリー)
定格消費電力	170W(電気用品安全法による測定方法に基づく)	80W(電気用品安全法による測定方法に基づく)
消費電流	AC 3.9A / DC9.2A (定格出力時)	AC 1.9A / DC4.8A (定格出力時)
定格出力	120W	60W
出力負荷インピーダンス	83 (ハイインピーダンス100系)	170 (ハイインピーダンス100系)
ライン出力	4 ~ 16 (ローインピーダンス)	
録音出力	0dBV 600 不平衡	
ひずみ率	1%以下(ライン1 1kHz 定格出力時)	
周波数特性	50Hz ~ 20kHz 偏差±3dB (ライン1 定格出力 - 10dB時)	
音質調節	低音: 100Hzに於いて±10dB (1kHz基準) 調節器付 高音: 10kHzに於いて±10dB (1kHz基準) 調節器付	
入力感度及びインピーダンス	マイク1: -62dBV 600 電子平衡 音量調節器付 マイク2: -62dBV 600 電子平衡 音量調節器付 マイク3: -62dBV 600 電子平衡 } 音量調節器付 スイッチ切換 ライン1: -22dBV 10k 電子平衡 } マイク4: -62dBV 600 電子平衡 } 音量調節器付 スイッチ切換 ライン2: -22dBV 10k 電子平衡 } マイク5: -62dBV 600 電子平衡 } 音量調節器付 スイッチ切換 テープ: -22dBV 10k 不平衡 } マイク6: -62dBV 600 電子平衡 } 音量調節器付 スイッチ切換 C D: -16dBV 10k 不平衡 } アンプ: 0dBV 600 不平衡 } 100系: 約100V 20k 平衡 音量調節器付	
信号対雑音比	60dB以上 アンプ入力 85dB以上	
スピーカー回線選択	2回線 LED表示	
動作表示	電源表示灯: LED (緑)、回線選択: 緑×2、5ポイントレベルメーター: LED (緑×3、黄×1、赤×1)	
使用温度範囲	-10 ~ +50	
付帯機能	非常制御: 非常用放送設備からの信号により非常時に本機の電源を「切」にできる。(制御可能電流 DC24V 10mA) 電源起動: 無電圧メイク接点制御方式により本機の電源制御が可能(制御可能電流 DC24V 10mA) オートフェーダー機能: マイク1からの信号でテープ、C Dの音量を減衰 減衰量調節器付 [減衰量: 最大30dB] エレクトロチャイムユニット (別売) 取付可能	
外装	パネル(アルミニウム)マンセルN1 近似色 ブラック 塗装仕上げ ケース(鋼板)マンセルN1 近似色 ブラック 塗装仕上げ	
外形寸法	幅430mm 高さ99mm 奥行308mm	
質量	約10.1kg	約7.6kg
付属品	取扱説明書(保証書兼用) 1	
適合品	エレクトロチャイムユニット	

外観寸法図

(単位 mm)



製造元 日本電音株式会社
 発売元 ユニパック株式会社

#KTBE60-H0-0